

企業としても個人としても福井を世界に広げる存在へ

トップの素顔

vol.

2

代表取締役社長
興和江守(株)

いわさ
岩佐
おおひで
大秀氏



【プロフィール】

昭和38年愛知県生まれ。中央大学商学部商業貿易学科卒業。

昭和60年興和新薬(株)(現、興和(株))に入社。その後、興和(株)の化学部門や海外部門に所属し、デュッセルドルフ(ドイツ)やニューヨーク(アメリカ)に計12年間駐在。

平成27年より同社執行役員(現任)、令和3年から興和江守(株)の代表取締役社長に就任。

福井商工会議所常議員、グローバルビジネス交流委員会委員長を務める。

【会社概要】

所在地：福井市毛矢1丁目6-23

創業：明治39年3月5日

設立：平成25年4月25日

普段、垣間見ることが出来ない福井商工会議所の議員の素顔を探る「トップの素顔」。今回は興和江守(株)代表取締役社長の岩佐大秀氏にお話をお伺いしました。

現在の仕事に進んだきっかけは 幼稚園の頃の思い出

昭和38年、名古屋に生まれた岩佐氏。現在の仕事に就いたきっかけは、幼稚園の頃に遡ります。仏教系の幼稚園だったのですが、そこに金髪の少年が入園。その子と交流を持ったことが海外への関心を芽生えさせました。漠然と海外に出てみたい、海外で友達を作りたい、さまざまなことにチャレンジしてみたいという思いが浮かんだそう。学生時代には外国語を積極的に学び、交換留学等も体験しました。

東京の大学に在学中は「和敬塾」という学生寮に入りました。ここは留学生も含めて生まれも育ちも違う様々な人々が集う場で、多くの人と交流しながら、人間関係を学び、自身を大きく

成長させてくれたと振り返ります。

卒業後は海外に携わる企業に就職したいと考えましたが、両親の希望もあり、名古屋市内に本社を置く商社である興和(株)を選びました。入社当初は海外関係ではなく、関東圏で医薬品の営業を担当しました。営業時代は、自身の前任者が長年に渡り担当していた地域を引き継いだこともあって、取引先からは「あの人だから取引したの」と言われ、悔しい思いをしたこともあったそうです。しかし、仕事に真摯に向き合い、努力を続けることで取引先に気に入られ、信頼を勝ち取り、成果もあげられるようになりました。

こうした若い頃に学んだ人との付き合い方は、後に海外などで企業のトップクラスの人たちとの関係を築く上でも大いに役立ちました。岩佐氏は「商社で仕事をするということは、他人のふんどしで仕事をさせてもらうということ。そのふんどしを共に履くような覚悟が信頼を築く重要な要素だと思う」と語ります。

4年目に異動となり、商社マンとしての基礎を学びながら、語学研修を経て、ドイツのデュッセルドルフに赴任となりました。ドイツには約6年間駐在し、国内化学製品のヨーロッパでの

販売や、海外製品の輸入業務などに尽力。一旦帰国しますが、その後、アメリカニューヨークに異動となり、約5年駐在。幼稚園時代に漠然と興味を持った海外への夢を長く持ち続け、努力の末に叶えて、今に至ります。

様々な教えをくれる読書

こういった経験と共に、自身を成長させてくれたと語るのが、岩佐氏の趣味でもある読書です。

若い時から多くの書籍を読み漁り、学生時代には年間100冊ほど読み込んでいたそうです。特に関心があるジャンルは、宗教・哲学書だと言います。高校時代の倫理の授業をきっかけとして哲学に興味を持ち、ギリシャ哲学等ヨーロッパ系の哲学書を読むようになりました。ドイツに駐在していたことから、ドイツ哲学にも興味を持ち、特に、ドイツ哲学者マルティン・ハイデガールの『存在と時間』という哲学書に関心を持ちました。非常に難解な内容であるため、まずは解説書から遠回りしようと考え、最終的に、曹洞宗の開祖であり、永平寺を開いた道元の『正法眼蔵』に行きつきます。そこから宗教関連の書籍も読むようになったそうです。ただし、『正法眼蔵』もま

た難解な内容であり、他の本へ度々移りながらも、読み始めて10年ほどたちますが、未だ読み切れず、結果、当初の目的であった『存在と時間』に手付けられていないとか。「いつになったら読めるだろう…」と思わず苦笑いをみせてくれました。

宗教・哲学書の他、ビジネス書など様々な本を読む中で気付きとして、「人の上に立つ者は正しい行いや人間性が重要であり、常に自身を見つめ直し、正しい方向に導ききっかけが読書であった」と振り返ります。



転勤の際もお気に入りの本は常に一緒にです

「地域」を意識し始めた福井での暮らし

これまで転勤が多く、国内外様々な

地に移り住んできた岩佐氏は、地元や地域という概念が希薄だったと語ります。転勤に付き添う自身の子供達に自身の故郷がどこか分からないと言われたこともあったそうです。しかし、2年半前に興和江守(株)の社長として福井に来てから、初めて、仕事の中で地域を意識するようになり、地域に貢献したい、地域に溶け込む生活を送りたいと感じるようになったと言います。

加えて、最近は休日に奥様と福井巡りもしているそうです。お気に入りのスポットは、平泉寺白山神社、一乗谷朝倉氏遺跡、年縞博物館とのこと。福井には知らないことも、行きたいところも多くあり、日本酒や海の幸など、多くの人に福井をより知ってもらいたいと語り、福井弁ももっと理解できるようにになりたいと頬を緩ませます。

最後に、同社としては今後も、福井に根ざしたうえで、自社のみならずサプライチェーン全体で強固な関係を築き、地域全体で世界に発信していきたいようなビジネスを展開していきたいと抱負を述べていただきました。そのためにも、社員個々の育成に力を入れ、それを組織としてまとめ、大きな力にしていくのが自身の役目だと意気込みます。